



# 金澤北ロータークラブ



金沢城公園 出初式  
写真提供 高島聡会員

## 『今だからこそ問う、ロータリーとは何か』

### 金沢北ロータリークラブ卓話（2）

R I第2680地区パストガバナー 深川 純一氏

ロータリーは、倫理の裏打ちのある企業活動こそが永続的に安定した利潤を獲得し、自由競争を必ず勝ち抜いて行くということを原理論的にも実践論的にも立証して行くものなのであります。

一体、そのような事実があるのか。既に立証されている事実としては、1929年に始まるアメリカ経済社会を襲った空前絶後の大パニックに際して、ロータリアンは一人も倒産していないという事実であります。この故に、ロータリーの職業奉仕は、不況期に強い哲学であるとも謂われているのであります。

何故、当時のロータリアンは倒産しなかったのか。これは、当時のロータリアン達がクラブ例会における発想交換機能を通じて、倫理的な企業活動のノウハウを開発し、それを自らの企業に実践してきた功德だと謂われているのであります。

この点は、ロータリーを理解する上で大変重要なところでありますので、少し詳しく申し述べます。

先ず、1905年、創世記のロータリーには、奉仕の考え方や影も形もなかったのであります。そこには、クラブ会員が皆で仲良く助け合う親睦だけの世界がありました。

この助け合うということの具体的な意味は何か、と言いますと、ロータリアンは、皆職業人でありますから、自分の企業経営上の悩みをクラブに持ち寄って智慧を出し合ったのであります。或る会員が「うちの会社では今こういうことで悩んでいるんだ」と言うと、当時は一業一会員制でありますから会員は皆業界が違います。したがって、発想もアイデアも皆違います。したがって、「そのことならうちの業界ではもう解決済みだ。こうして御覧」と言って教えてくれます。

また、或る問題については、皆未だ未解決であった場合は、三人寄せれば文珠の知恵で、皆で衆知を集めて解決していったのであります。

このようにして皆が知恵を出し合い、アイデアを交換して助け合ったのであります。したがって、恰も、クラブが経営相談所のような機能を果たすようになり、会員達は次第に豊かになって行ったのであります。

そして、この企業経営上の「発想の交換機能」によって、やがてロータリーは、1927年、職業奉仕の概念を生み出すに至るのであります。

このクラブ例会における「アイデアの交換」「発想の交換」の機能こそ、ロータリークラブが創立当初からもっていた本質的な機能でありまして、このことは当時のクラブの「綱領」にも「発想の交換」Exchange of Ideaという言葉が記されていたのであります。

ところが、1922年、この発想の交換という言葉がクラブの「綱領」から消えてしまったのであります。それは一体何

故か。

彼らは、クラブ例会における「発想の交換」Exchange of Ideaと謂うことは、ロータリークラブにあっては至極当然のことではないか、当たり前のことであれば、わざわざ書いておく必要はないだろう、と謂うので、消してしまったのであります。したがって、言葉は無くなりましたが、現在も「発想の交換」Exchange of Ideaという機能は、ロータリークラブの本質的要素として厳然として存在するのであります。

ところが、この発想の交換による例会出席の重要性を、今日の日本のロータリアンはどれほど理解しているでしょうか。答えは著しくネガティブであります。多くのロータリアンが、「例会」では、食事をとり、報告を聞き、卓話を聞いて帰って行きます。中には卓話も聞かずに食事だけして帰って行く人も沢山居ます。企業経営上の知恵の交換・発想の交換（Exchange of Idea）などは全くありません。ロータリアンに自己研鑽・切磋琢磨の意識すらないようであります。このような状態では、職業奉仕が実践出来る筈がないのであります。

翻って、20世紀初頭のロータリアン達は、先程申し述べましたように、例会の重要性を強く認識して、自己研鑽・切磋琢磨による企業経営上のアイデアの交換をしていたのであります。

そして、その例会活動の中からロータリーの企業管理論とでもいべき原理を生み出し、その原理を実践して、1927年、遂にその実践原理を職業奉仕と名付けたのであります。

このようにして、1929年の経済パニックの時にロータリアンは一人も倒産しなかったのであります。

しかし、ロータリアンだけが倒産せずに生き残ればよいというではありません。ロータリアンは、発想の交換によって企業経営上のノウハウを開発し、それを企業経営に適用するという職業奉仕の原理の実践によって自由競争に勝つことが出来ます。勝者になることができます。

そこで、勝者になった後で、または勝者になる過程において、自由競争に破れて行った敗者の代弁者となって、企業経営上のノウハウを提供したり、職業倫理を提唱したりして、世のため人のために力を尽くさなければならないのであります。これがロータリーの職業奉仕の実践であります。

殊に、ロータリーは倫理運動の視点に立って、同業者関係や下請関係においては、常に倫理を提唱し、共存共栄の道を模索すべきことを説くのであります。これは、職業奉仕の大きな柱であり、ロータリーが倫理運動であることの面目躍如たる場面なのであります。

この故に、『ロータリーは、人類文化史が20世紀の時代

に刻印を打った職業人の最も優れた倫理運動である』とも語られているのであります。したがって、この考え方が正にロータリーの核にある考え方なのであります。

この「ロータリーの核」にある考え方を文章として明確に表現しているものが標準クラブ定款第4条の「ロータリーの綱領」なのであります。したがって、「綱領を知らずしてロータリーを説くことなかれ」と言われているように、綱領を身につけることはロータリアンであることの絶対条件であります。

ロータリーの綱領は、ロータリーの般若心経ともいえるべきものでありますから、ロータリアンとしては、大悟徹底的に理解していなければならない問題なのであります。にも拘わらず、最近、「綱領」を知らないロータリアンが増えてきたということを耳にします。これは誠に由々しきことであります。昔は、このようなことは絶対にあり得なかったのであります。これはロータリーの衰退を物語るものかとも思うのであります。

以上を要するに、ロータリーは、職業倫理の裏打ちのある企業経営によってはじめて職業が繁栄することになり、そのことが世のため人のためになると説くのであります。これが「ロータリーの核」にある一つ考え方なのであり、今日のテーマであります「今だからこそ問う、ロータリーとは何か」という問いかけに対する一つの回答であります。

ところが、既に御承知のように、ロータリーは、この20年間で変わりました。いや、激変したといえるべきでしょう。殊に、ここロータリー100年余りの歴史の中でロータリーの核にあるもの即ち、ロータリーの中核部分が激変致しました。いや、核がなくなったと謂うべきであります。これは、今後のロータリーを考える上で非常に重要な問題であります。

まず、核を失うに至った歴史を振り返ってみましょう。1910年に国際ロータリー(RI)の前身である全米ロータリークラブ連合会が創立された時、当時の16のロータリークラブから全米ロータリークラブ連合会が委託された事項は

二つだけ、即ち、奉仕理念の追求、ロータリーの拡大でありました。そして翌年1911年に情報の媒介が付け加えられました。

そして、1922年に国際ロータリー(RI)が成立したとき、上記三つの委託事項のうちの特にエッセンスのところ、即ち、核になる部分については、RIが直接監督権(RI定款第3条)を取得することになりました。その核になる部分とは何かというと「一業一会員制」と「規則的例会出席」の原則の原理的な管理であります。この二つはロータリーの核にあるものでありますから、このいずれかでも無くなるとそれは最早ロータリーとは謂えなくなるのであります。

ところが、「一業一会員制の原則」は、2001年の規定審議会で廃止され、「規則的例会出席の原則」は、1968年以降度重なる規制緩和で有名無実になって、ロータリーの核が無くなってしまいました。

更に、1980年、個人倫理の核であった1915年の「ロータリー道徳律」は、RIレベルで廃止され、更に昨今、個人奉仕を中核とする実践原理の核は、ロータリー財団の寄付その他困窮者に対する諸々の寄付の強い要請によって揺らいでいます。

誤解のないように申し上げますが、ロータリアンは常に弱者に涙する心を失ってはなりませんから、財団の寄付とか地域社会に対する諸々の寄付は資力のある限りしなければなりません。ただ、それは、ロータリアンが例会で奉仕の心を磨いたことの反射的效果にすぎないものでありますから、寄付をすることはロータリーの本願ではないのであります。寄付はあくまでも任意のものであって、他から強制されるべきものではありません。したがって、ロータリアンたるもの世のため人のために寄付はしなければなりません。それはあくまでも、先ず、自分の職業を安泰にした上で余力があればのことです。このことは、既に昭和6年の日本における2代目のガバナー井坂孝さんが「ロータリアンたるものは徒に慈善事業に憂き身をやつすことなかれ」と警告してるところであります。

## 2009 - 2010 (11) ロータリー財団国際親善奨学生・文化研修生について

国際ロータリー第2610地区 ガバナー 久保順一 ロータリー財団委員長 榎田隆一郎

さて、今般当地区では、2009 - 2010 (11) 年度国際親善奨学生・文化研修生を募集します。貴クラブにおかれましては、是非、優れた候補者を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

### 受験資格

1. 総合大学あるいは単科大学において少なくとも2年間の教育課程を修了しているか、高校卒業資格を有し、現在の仕事・研究等に2年以上従事している者。
2. 親善使節として資質を有し、プログラムの目的を理解し支持する者であること。また、合格後のオリエンテーションに必ず参加しなければなりません。

3. ロータリアン(退会より36ヶ月以上経過しないロータリアンを含む)、名誉ロータリアン、ロータリークラブ関係者、それらの配偶者、尊属・直系卑属、その配偶者ではないこと。
4. 希望留学先教育機関及びその所在地に過去6ヶ月以上在籍や居住したことがないこと。

### 募集人員

親善奨学生(1ヶ月または2年のマルチ)  
文化研修生(3・6ヶ月)

合計5名

### 申請書受付期間

ガバナー事務所へ2008年3月1日(土)～4月25日(金)迄

## 第1653回例会

2月7日(木) 雪 12:30~13:30 松魚亭

### 1. 講話

地域特産物マイスター 小畑文明 氏  
「金沢の食 あれこれ」

### 2. 出欠

出席 41名 欠席 21名  
出席率 66.13% ビジター 3名

### 3. 来訪者(敬称略)

金沢RC 森俊彦  
金沢西RC 河合英樹 小林 洋

### 4. 皆出席顕彰(敬称略)

24ヵ年 安宅雅夫、越田和好  
6ヵ年 横井清治  
2ヵ年 滝川真人

### 5. お誕生日祝い(敬称略)

10日 中田秀雄  
24日 松平敦實  
29日 山上公介

### 6. ご結婚記念日祝い(敬称略)

4日 中田龍一  
23日 松平敦實  
25日 横井清治  
26日 中村芳明

### ニコニコボックス

小間井君、中田(龍)君、木村君  
ゲストに、小畑文明氏をお迎えして。  
水巻君 ローターから、初めてのバースディプレゼント。家族共々、感激いたしました。  
澤田君 昨年、外壁をリフォームした事に対し、浅野川  
境界景観賞を受賞いたしました。ご推薦頂きました  
佃会員、米澤会員にお礼申し上げます。  
合計 7,000円 (累計 774,000円)



### 4. 幹事報告

・例会終了後、理事会開催。

### ニコニコボックス

小間井君、中田(龍)君

本日の講師に、谷内直樹氏をお招きして。

越田君 24ヵ年の顕彰有難うございます。あと一年で  
四半世紀になります。頑張ります。

中田(秀)君 誕生日に美しいお花、有難うございました。  
合計 6,000円(累計 780,000円)

## 理 事 会 報 告

2月14日(木) 出席者 11名

### ◆ 審議事項

①深川先生特別講話決算書報告

### ◆ 各委員会報告

・親睦委員会 親睦家族旅行

日時:5月中旬の予定

場所:滋賀県大津市「住友活機園」見学

詳しくは、次回理事会にて審議

・友好委員会 4月10~11日

京都洛北RC来沢の件

スケジュール時間変更の件、次回理事会にて審議

### ◆ その他

・次年度地区委員会

会員増強小委員会委員→松本範夫会員

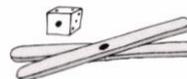
米山寄付増進小委員会委員→澤田光夫会員

・浅の川園遊会 4月12日(土)~13日(日)

## 第67回 北遊会成績

平成20年2月8日(木) ソシアルにて

優勝 木下 和吉  
第2位 滝川 真人  
第3位 駒栄 敏雄  
第4位 濱井 弘利  
B B 本多 弘夫



## 第1654回例会

2月14日(木) 雪 12:30~13:30 松魚亭

### 1. ミニコンサート

ギタリスト 谷内直樹 氏

### 2. 出欠

出席 39名 欠席 23名  
出席率 62.90% ビジター 4名

### 3. 来訪者(敬称略)

金沢RC 森 俊彦  
金沢東RC 笠間史盛  
金沢西RC 中村吉輝  
金沢南RC 加藤英資

## 講 話 予 定

2月28日(木)  
夜間例会 入船亭 扇治氏  
3月6日(木)  
都市連合会に振替  
3月13日(木)  
クラブフォーラム



会 長:小間井宏尚  
会長エレクト:磯野 洋明  
副 会 長:安宅 雅夫  
幹 事:中田 龍一  
副 幹 事:中村 實博

S A A:本多 弘夫  
会 計:松田 忠秋  
広報委員長:的場 晴次  
会 員 数:63名  
クラブ設立:昭和48年10月3日

例 会 日:木曜日 12:30~13:30  
例 会 場:松魚亭 金沢市東山1-38-30  
TEL<076>252-2271 FAX252-2273  
事 務 局:金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内  
TEL<076>222-2525 FAX224-2882  
E-mail:k-kitarc@aqu.hokuriku.ne.jp